

No.とプログラム名	No.56 横浜の未来を考えよう！ ～データを使って都市経営体験～
実施日・回数	8月7日（水）午前 計1回実施
会場	【中区】 横浜市市民協働推進センター スペースA・B
参加児童数	13人
企業・団体等名	横浜市政策経営局データ経営部データ経営課
参加の目的 (150文字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが都市経営（市役所の仕事、二元代表制、予算編成等）について学び理解を深めるとともに、データに親しみデータを活用しようとするきっかけを、ワークショップ等を通じて、提供すること。 ・横浜市が進める“データ経営”について、多くの方に知っていただく機会とすること。

1 プログラム内容

- ・市役所業務や予算編成などについて学んだ上で、会場にいる大人（保護者・スタッフ等）を対象に「世論調査」を実施。
- ・世論調査結果や自分たちの考えをもとに、横浜市の予算案をグループ毎に考え、発表。
 ※[当日のレポート](#)（横浜市政策経営局データ経営部公式note）

2 当日の流れ

- ・「市役所の仕事や予算について学ぼう」（スタッフによるレクチャー）
- ・「横浜をどんなまちにしたい？」（グループワーク）
- ・「みんなの“声”を聞いてみよう！」（会場にいる大人に聞き取り調査）
- ・「キミは横浜市長！」（グループワーク）
- ・グループ別発表



スタッフの説明を聞く参加児童



集合写真（参加児童・スタッフ）

3 参加児童の様子や意見、感想など

- ・会場にいる大人（保護者、スタッフ等）から意見を聞く「世論調査」の場面では、緊張しながらも、自分の保護者以外の大人にも積極的に意見を聞いていた。
- ・グループワークでは、「人口が増えれば、横浜が賑わって、魅力づくりや経済の発展につながっていくので、まずは子育ての分野の予算額を増やしたらいいと思う」、「もともと予算額が少ない分野は、これ以上削減しすぎるとやりくりできなくなるかもしれない」などといった、大人顔負けの意見もあった。

【参加児童の感想】

- ・「初めて会う人に質問するのはとても緊張した。勇気を出して話しかけたり、意見を伝えることができできたのは勉強になった」
- ・「自分たちが集めたデータをグラフにすると、どの意見が多いのか一目でわかるようになって、みんなの考えをまとめるのがスムーズになった」



調査結果や自分たちの意見を踏まえ、
予算案を検討



グループで考えた予算案を
13人の「こども横浜市長」が発表

4 企画・運営者としての気付きや感想など

初めての企画でしたので、どの程度内容を理解し、楽しんでくれるか不安もありましたが、いざ始まってみれば、子どもたちは、緊張しながらも大人たちに積極的に話しかけ、グループ内で意見を交わし、楽しみながら予算案の作成や発表に取り組んでいました。

子どもたちにとって分かりやすいプログラムは何かと考えたり、子どもたちの鋭い視点に驚かされたりすることで、我々にとっても学び多い有意義な機会になったと考えています。

5 学生サポーターの気付きや感想など

プログラムに携わり、子どもたちの考える力に驚かされました。保護者にアンケートを取り、予算をどのように配分すると良いのかを考え、現状とアンケート結果を踏まえた新たな予算案を作っていました。グラフ化した結果を見ながら、予算の増減を考え、ときに同じグループの仲間とともに議論を交わしている姿がとても印象的でした。また、市職員による細かく作られたプログラムと子どもたちへの丁寧なコミュニケーション力に感銘を受けました。



学生サポーターが一人ひとりに声掛け



会場内にいる大人に「世論調査」



調査結果をグラフ化